

松田尚美(マツダ ナオミ)  
平成20年度2次隊 看護師 ラオス

看護師10年目を機会に青年海外協力隊への参加を決意しました。

私は現在、ラオスのウドムサイ県フン郡という地域に住んでいます。ウドムサイ県は、ラオスの北部、山岳地方にあり山に囲まれた地域です。ラオスには60の少数民族があり、山岳部に住む人々もたくさんいて、それぞれに特徴のある衣服や装飾品、髪型などをしています。そんな人々と日常生活の市場などで接することができて なかなか楽しいです。

ラオスには雨季(夏)と乾季(冬)があり、現在は乾季にあたります。私の任地であるフン郡は山間部のため朝晩は霧が晴れず大変冷え込みます。

私は2008年9月にラオスに来たわけですが、しばらくは首都のピエンチャンでラオス語の勉強をし、実際に任地には11月に赴任しました。この1月でちょうど3ヶ月になるわけですが、まだまだラオス語もおぼつかず、フン郡での生活に慣れるのが精一杯なような状況です。なので、まだ活動らしいことはできていません。なので、私の生活について紹介したいと思います。

フン郡はラオスの中でも「47の最貧困郡」の1つに指定された大変貧しいところです。水道もなければ、電気も安定供給されていません。水は、水屋さんに電話して井戸水を購入します。その水で洗濯したり、食器を洗ったりします。井戸水のため飲めないなので、これとは別に飲み水も購入します。電気がないので、お風呂は基本的に水浴びです。乾季の今、水浴びは非常に勇気が必要ですが、最初の1~2浴びをクリアすればあとから体がホクホクしてきます。「湯冷め」もしないので風邪もひきません。洗濯も手洗いです。日本から送ってもらった洗濯板が大活躍です。

料理は基本的に七輪を使用します。食堂などではガスコンロを使用しているところもありますが、まだまだ一般家庭には普及していません。首都のピエンチャンに住むラオ人の家庭でも好んで七輪を使用していたりします。最初の頃は炭にうまく火がつけられず、バナナとミカンで空腹をしのいだ時期もありましたが、病院スタッフに指導を受け、今では上手に火を起こせるようになりました。が、火加減の調節はまだ難しいです。

電気は私が赴任した頃は24時間つかえず、夕方6時過ぎから夜の10時頃までだけ電気が供給されました。なので、この時間だけコンセントが使えて、電気がつきます。ところが2008年12月の末、24時間使用



村の子ども



水屋さん

可能な電気が供給されるようになり、現在フン郡は電気の配線工事ラッシュです。このおかげでフン郡で冷蔵庫を見かけるようになったりと、今フン郡は文明開化真っ盛りな様子です。私の家も配線工事が終了し、時間に関係なく電気が使えるようになり、「電気って素晴らしい！！」と心から思いました。

印象に残っていることといえば、先日サソリに刺されました。ラオスには小さなサソリがいるらしく、ラオ人でも時々刺されることがあるようです。普通、刺されると痛み・痺れ・張れの症状が1週間ほど続くらしいのですが、私を刺したサソリはとても小さなものだったためか、痛みと痺れのみで、2日で症状も落ち着きました。私の日常生活にサソリが入ってきたことは大変ビックリしましたが、これもラオスの思い出と考えるようにしています。

私が配属されたフン郡病院は2008年10月に日本の援助で新しい病院が完成し、医療資器材もたくさん届きました。大切にに使わせていただいています。

ラオスにきてまだ間もないですが、日本とは全く異なる生活をしてみて今までの自分がどれだけ物と情報に囲まれて生活していたかを思い知りました。洗濯機や冷蔵庫のない生活なんて考えられなかったけれども、いざそういった生活してみると、ないならないなりに生活している自分に驚きました。なによりもそこで暮らす人々が明るく、元気に暮らしているという事実。「アレがないと生きていけない」というのは単なる思い込みだったのだな～と思います。便利であることを求めないわけではないけれども、この生活も悪くないと最近思います。多くを望まないシンプルな今の暮らしは不便ではありますが、一種の清々しさを感じます。

任期は2年。とにかく健康に、地域の人々とともにフン郡の保健医療の向上にむけて頑張っていきたいと思えます。



床屋さん